

小学校4年生～6年生の部

*作品は原文のまま掲載しています。

宮城県知事賞

交通ルールを守ろう

美里町立南郷小学校 五年 木谷 吏玖

みなさんは横たん歩道を歩いて渡る時に、手を上げて渡っていますか。ぼくは横たん歩道を渡りたい時は手を上げ、渡りきってから手を下ろすようにしています。

小学校に入ってからすぐに交通安全教室があり、事故にあわないためにはどうしたらいいのかを教わりました。その中の一つに、横たん歩道は手を上げて」と言う約束があったのでそうしています。

でもぼくは、学年が上がるにつれて、手を上げることが少しはずかしくなってきました。そしてある時友達に、手なんか上げて下さいよ。」と笑われてしまったのでやらなくなっていました。

手をあげても、あげなくても自分が事故に気をつけなければいんだと思っていました。五年生の春、ぼくは学校の帰り道、信号機のない横たん歩道を渡りたくてその前で待っていました。車はビュンビュン通るのになかなか止まってくれません。ぼくに気づいていないのかなと思ひ、手を上げてみました。すると車は止まってくれたので、やつと渡れる！と足をふみ出すと、反対から来た車が僕の目の前をスーッと通り過ぎていきました。すぐびつくりしたし、もしかしたら車にひかれていたかと思うととてもこわかったです。心ぞうがとでもバクバクして、ぼくはしばらくその場所に立ちつくしていました。

でも、どうしてこんなことになったのか、考えてみました。車からは、ぼくたちのすがたは見えにくいのかも。手を上げて少しでも目立つようにすれば渡る前も、渡っている時も車の運転手さんから見えやすいんだ。」と思いました。家に帰ってから、毎日車を運転しているお母さんに聞いてみました。車の中から横たん歩道の前や、渡っている人って見えにくいのかな。」するとお母さんは、うん。確かに見えにくい時もあるね。でも本当は車を運転する人は横たん歩道に人がいる時は必ず止まらなくちゃいけないルールなんだよ。」と教えてくれました。

ルールがあるのにルールを守っていない車がたくさんいるんだなあと思いました。そしてぼくは、これからはずかしがらずに横たん歩道では必ず手をあげようと思います。横たん歩道を渡る前そして渡りきるまでは手を上げる。ぼくたち子供もそうですが、大人の方も手をあげたほうが目立つし、事故防止につながるはずです。

なので車を運転する方も横たん歩道に人がいたら止まってください。大人も子供もみんな交通ルールを守って今よりも、もっと安全に住みやすい町になったいと思います。

宮城県警察本部長賞

自転車通学で学んだこと

加美町立賀美石小学校 六年 千葉 珀月

ぼくは、学校まで天気が良い日は、自転車で通学しています。自転車通学は、友達と話しながらすいすい走って行くので、とても楽しいです。そして、いつも車で通る道を自転車で走ってみると、色々なことが分かりました。

一つ目は、道は一見平らな道に見えても、ゆるやかな上り坂だったり、下り坂だったりすることです。上り坂は自転車ではとてもつかれます。下り坂は強い風の日はすいすい走れて気持ちがいいですが、スピードが出すぎるととても危険です。また、横からくる風も横からおされてハンドルがとられ、危険だと感じる時があります。

二つ目は、せまい道は特に自動車に気をつける必要があることです。自動車が通らないことを確にんしてから進んだり、できるだけ危険がないように注意したりすると、横から草が飛び出していて車輪に巻きまられる危険があるので、とても慎重に行かなければいけません。自転車通学するのは車とちがう楽しさがありますが、このように大変なことがたくさんあります。

自転車通学していて、以前にはげがをしたこともありました。下り坂でスピードを出し過ぎてしまった時、道に木の枝が飛び出して、車輪にからまり、転んでしまったことがありました。その時は通りがかった大人の人が車を止めて、助けてくれました。それ以来、前よりも慎重に自転車登校をするようになりました。

他にも、ぼくの通学路には、いったん交通量が多い車道に出なければならぬ場所があり、最初はこわくて通りたくないと思いましたが、どうしても通らなければいけません。注意して車が来ない時を見て急いで通ります。車を運転している人も僕が通っているときにはゆつくり走ってくれるので、今では慎重に自信をもって通ることができるようになりました。

草が大量に生えてくる時期は、いつもよりも危険性が高まるということにも気づきました。足元が見えないくらいに草が生えている所もあり、とても危険です。ある時、気がつくのと、草かりをしてきてくれる人がいました。学校近くの横断歩道を渡るときに、自動車の人が必ずゆずってくれるのもとてもうれしいです。

交通事故を起さないためには、自分自身がしっかり交通ルールを守って、そして自分が気が付いた色々な危険に注意しなければいけません。また、地域の人たちが当たり前のようにぼくたちの安全を守ってくれていたことにも気が付きました。たまに、ニュースで交通事故の話が聞きますが、ぼくも交通事故にあわないように、これからも交通ルールを守って自転車に乗りたいです。そして、大人になった時には子供を守る運転をしたいです。

小学校4年生～6年生の部

*作品は原文のまま掲載しています。

宮城県教育委員会教育長賞

笑顔のための交通ルール

塩竈市立杉の入小学校 六年 高橋 壮介

交通安全について僕が何か出来ること、考えることがあるとすれば、それは自転車についてだと思います。僕も遊びに行く時によく乗るのでとても身近な乗り物です。車と違って免許など必要なく練習さえすれば誰でも運転出来ることもあつていろいろな年代の人が乗っています。

僕は前に家の回りの道路を小さな女の子が自転車で走っているのを見ました。そこは曲がり角がとても多いところで、そこをけっこうなスピードを出して走っていたので僕は危ないなと思つて見ていました。そして女の子が曲がり角から出て来たところ、反対側から車が来てぶつかりそうになっていました。車が急ブレーキをかけて止まったので事故にならずにすみました。ほんの少しでも車が自転車が飛び出して来るのに気付くのが遅かったら、自転車がもつとスピードを出していたら、きつと大変な事故になつていたと思います。

僕はその出来事を見てからは自分も乗る時はいろいろと気を付けるようにしようと思ひました。曲がり角や見えにくい道では慎重になつて走る、スピードを出しすぎない、なるべくヘルメットをかぶるなどです。他にも他の自転車と横並びになつて走らない、回りの音が聞こえなくなるようなイヤホンなどをしない、スマホをいじらないなど調べたらたくさんのルールがありました。

これらのルールをたくさんの人に理解してもらい、意識して守っていくことが出来れば、交通事故を減らしていくことが出来ると思います。小さい子だけではなく、若い人もお年寄りにもみんなに広めることが大事だと思います。

そのために僕がやれることは多くはないですが、弟が乗る時にはルールを教えたり、危ない運転をしている人を見かけたら声をかけて、なぜ危ないかなどを教えてあげたり、出来ることはやつていきたいです。そして、自分自身も交通安全ルールをしっかり守りながらこれからも楽しく自転車を利用していきたいと思ひます。

一般社団法人 宮城県交通安全協会会長賞

新一年生の妹との登校

気仙沼市立階上小学校 六年 三浦 諒 恭

ぼくには、今年一年生になった妹がいます。

去年まで一人で登校して、自分なりに交通ルールを守って登校していました。

でも今年から妹が入学してきたから朝一緒に登校するようになってから、今まで以上に

交通ルールに気をつけるようになりました。

一番の理由は、お母さんに「よろしくね。ちゃんと手をつないで車に気をつけて行ってね。

お兄ちゃんが頼りだからね。」と、言われたからです。

でも初めのころは、歩幅の違いや妹のペースに合わせるのが大変で歩道橋も自分が先に登つてしまつたりしていました。

だけど毎朝同じことをお母さんに言われ登校していると自分が妹を守らないと思ひ始めました。

歩くときは、自分の前か横を歩かせて何かあつてもすぐに守つてあげられるようにしています。

来年からは、妹が一人で学校に行くのでそのために登校などのルールとかを覚えて安全に登校とかをしてほしいです。

そして毎朝歩道橋のこう差点でみまもりしてくれている階上の駐在所のおまわりさんや校長先生、保護者、地域の方々のおかげで安全に登校できています。

毎日元気に「行ってきます。」を言つて登校し、無事に「ただいま」と家に帰る生活を送れるようにしていきたいと思ひます。

小学校4年生～6年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県PTA連合会長賞

安全に自転車に乗ろう

加美町立東小野田小学校 四年 太田 碧空

四年生になってすぐの交通安全教室は、自転車のこころ習ふでした。ちいきのちゆう在しよ長さんや交通指どうたいのみなさんが、ぼくたちの先生になって、やさしくおしえてくださいました。大きく二つのことを習いました。自転車の点けん方法と、じつさいの自転車の乗り方です。本道の道路のように、通り道をつくって練習させてもらいました。

まず、自転車の点けんの方法です。点けんの合言葉は「おたはしやべるピカピカ」です。ぼくは初めて聞きました。「お」はブレーキ、「た」はタイヤ、「は」はハンドル、「ピカピカ」は車体、「べる」はベル、「ピカピカ」は反しや材とライトのことです。ぼくは、今までは自転車の点けんをしたことがありませんでした。買ったまま乗らずと乗れると思っていました。でもこの合言葉のおかげで、点けんがかんたんになります。

次に、自転車に乗るときに気を付けることを教えてもらいました。スタートするときには必ずたしかめるのは、周りに人や車がないことです。前だけではなく、後ろも見ます。安全をたしかめてから走り出します。ぼくは前まであまり周りを見ていませんでした。

道のとちゆうに、大きな車や物があつて、前が見えないこともあります。そんな時は、一度自転車からおります。物かげに人や車がないことをたしかめるためです。だれもいなければ、自転車で走つてよいそうですが、もし、人や車がいた場合は、少し待つてから走り出すのだそうです。

人がいても、ぼくの自転車に気付かないこともあります。そんな時はベルを鳴らします。予想外の動きをしておたがいにあぶない目にあつてはこまります。自転車に気付いてもらうことも大切なのです。自転車の運転に自信があるからと、すいすい進んでしまうのはきけんのだとわかりました。

最後に、ヘルメットの大切さを教わりました。ヘルメットを付けていけば、万が一ころんだ時に頭を守つてくれます。しかし、ちようどよいベルトのしめ方もポイントなのだそうです。ぼくは、ふたから自転車に乗るときにはヘルメットを付けていたので、良かったなと思ひました。

ぼくは、四年生なので、まだ自分の地区の中でしか自転車に乗ることはできません。高学年になり、中学生になると、学区もこえて自転車が使えようになります。四年生で習つた、この自転車の乗り方は、何歳になつても守らなくてはならないルールだと思ひます。命を守るために、これからも正しく安全に自転車に乗っていきます。